

海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録
(令和6年度 第3回)

- 1 日時 令和7年2月3日(月) 9:45~12:10
- 2 場所 海老名市立有馬小学校 校長室
- 3 出席委員 山口 慎二委員長、二見 隆江委員、村山 紀行委員、小松 明委員、
奥谷 婦貴子委員、小林 里実委員、住田 晶子校長、前田 潤子教頭、
徳山 敬倫総括教諭、
- 4 会議の内容
 - (1) 授業参観
 - (2) 児童による6年の卒業プロジェクト「住みつづけたいまちづくり」の取組説明
村山委員：世の中の役に立てるようにこれからもがんばってほしい。
 - (3) 協議
 - 【これまでの学校の様子について】
校長より修学旅行、学習発表会、地域清掃、書き初め、ひびきあう教育研究発表大会の紹介
 - 【学校評価について】
小林委員：PTA 活動への参加について、保護者のはるにれフェスタや運動会への参加の様子を見ていると、周りを見て、協力的に動いてくださっている印象がある。
山口委員長：授業参観への参加率はどうですか。
住田校長：学校公開ではのべ約60名でした。授業参観になるともっと参加が増える。
小林委員：高学年になると子どもに拒否されることや、参加する保護者が少数で教室に入りにくい実情もある。
 - 【全国学力・学習状況調査の結果について】
徳山総括教諭：国語算数についての得意や不得意についてわかった。国語では、覚えるから使う力の育成へ指導を変えていかないといけない。算数では、モジュールの時間を効果的に使って計算力を高めていきたい。令和3年度と比べて学習面も生活面も結果の数値が上昇している。校内研究の成果があったのではないかと感じる。
住田校長：教科等横断的な学習を研究したことで、授業を企画する意識に変わってきている。教科専科について、現状でも行っているがさらに活発に取り入れ、いろいろな先生とのかかわりを増やすことで児童理解を多面的に行える

ようにしていきたい。

学校の枠組みを今の時代に合わせていく必要を感じる。地域の方の支援も受けながら、児童に選択肢があることや、児童の声を聞く学校や授業を目指したい。

山口委員長：1年生の授業で「左」の書き順をしていた。タブレットでぱっと文字が出るこの時代に書き順に重きをおいていますか。

奥谷委員：タブレットでゲーム感覚で書き順を学べるものもある。

小松委員：書き順の問題はナンセンスの時代と出ていた。書きやすい順で書けばよい。点、はねもそう。その検討チームがあるようだ。

住田校長：教えられたことを生かし協働で解決する時代になってきていますね。

前田教頭：再生することが求められた教育からの転換が必要だと思います。その教育を受けてきた教師側も変わらないと・・・。

小松委員：たて社会で生きてきた世代と提案改革していく若手とが組織の中にいる状態。

二見委員：インクルーシブについて、補充していく部分は大切にしてほしい。間違った考えで指導が行われないように。指導体制が大きく変わってきているんですね。

住田校長：チーム担任制の学校もある。学年を超えて行っている学校も。

小松委員：医者も主治医から1人の患者に対してチームで対応する。情報共有を密にしないとミスが起こる。

二見委員：一人に責任を背負わせないというのが主流ですね。

山口委員長：有馬小は情報共有しやすいが、大規模校はどうしているのでしょうか。

小松委員：10クラスをAチーム、Bチームと分ける等、どこまでわけていくかではないか。

小林委員：そう思うとティームティーチングは必要だと思う。人数の少ないクラスは手厚くていいなと思う。先生に質問しやすい環境だと思う。

二見委員：子どもや保護者のSOSがキャッチしやすい環境づくりをお願いしたい。

【学校予算について】

住田校長：保健室前の緑化については、地域と共につくり、地域の方が学校に日常的に来る取り組みにしたい。

(4) その他情報提供等

住田校長：次年度PTAへの加入率は7割程度。1年生の保護者に加入しない希望が多いが、「PTA活動をしたい！」という学校づくりを進めたい。

山口委員長：7割とは多い方ですか。

住田校長：多い方だと思う。

小林委員：ありまっ子協力金への協力の様子はどうでしょう。

徳山総括教諭：数名の方は協力いただけなかった。

- 二見委員：PTA 会費から出していた卒業記念品等はどうなりますか。
- 住田校長：1 人でもご協力いただけない方がいた場合は、個人的な物の購入はできなくなると考えております。
- 小林委員：行事の準備の際に参観日以外に子どもの様子を見ることは PTA の保護者しかできない、はるにれフェスタもブースの手伝いができない等、加入のメリットがわかるように情報発信をしてほしい。メリットがわかると、入会しようとなると思う。
- 奥谷委員：お得さが大切ですね。中学校は合唱祭や運動会で活動に協力した保護者席が用意されています。
- 二見委員：不平等さを感じない程度に特典があるといいですね。途中加入もできることを情報発信してはどうでしょう。
- 小林委員：PTA イコール役員のイメージから加入を辞退している方もいると思う。役員は本部以外なくなった。
- 二見委員：次年度以降の PTA に教員はどうかかわっていきますか。また、PTA 会長をおかなくなるとのこと。組織として残した方がいいのでは。
- 小林委員：本部役員に抵抗はなくても、PTA 会長の名前を重く感じている人が多い。
- 奥谷委員：会長会の回数が多くて会長になると大変ですよ。
- 村山委員：そんなに気にならなかったが…。
- 山口委員長：PTA 本部の選考はどのようになりますか。
- 小林委員：基本はアンケート。各委員会は撤廃したので、本部の 3 人のみ。本部の大きな仕事もスリム化した。課題は、各ボランティアの立ち上げ方やとりまとめだと思う。
- 小松委員：体制で問題があれば、その都度変えていくといいですね。
- 村山委員：わたしたちが PTA をやっていた頃から PTA が任意と言っていたのに、そのままになっていた。今回の改革の内容はよいと思う。
- 小松委員：組織のトップダウンから集団執行体制への変化を不安に感じるかもしれないが、会長なくして問題なければ。問題あればまた会長をたてるとか。
- 二見委員：時代の移り変わりを感じる。地域の方が誤解して PTA のことを受け止めないように。前向きな改革であることを伝え、みんなで意欲的に取り組めるとよい。
- 小松委員：いかに情報発信し、情報を集めていくかが大切。
- 小林委員：発信の一年にしてほしい。常に発信があるとよいと思う。
- 奥谷委員：「お友達誘ってきてください」の一文があると、ボランティアが地域にも拡大するかもしれない。